

北海道苫小牧市の大樹さん

特別住民番号1107

大樹という名前は、生まれる前から、男だったら大樹にしようと考えていなくて、運良く男の子でしたので命名しました。

永遠の森の大きな樹になる様に、という事で永森大樹と名付けました。

ただ、読み方は初めだいきと思っていたのですが、ながもりだいきじゃ響きが重く、たいき、と読む事にしました。

この度、特別住民となる機会に恵まれ、ぜひ一度、大樹町を訪ねてみたいと思っています。



愛知県日進市の大樹さん

特別住民番号1109

日本全国には、たくさんの大樹さんがいらっしゃるんだなあ、と思いましたが、我が家の大樹君についてお話したいと思います。

私(父親)の名前は「太平」と申します。親から自分の名前の由来を聞いたことはないのですが、おそらくは「天下泰平」であるとか「大平原」といった言葉のイメージからきているものだという事は想像できました。

一般的な父親のように、やはり自分の子供、特に男の子には自分の名に由来した名前をつけたいと思っていましたので、この「大平原」のイメージの方から考えてみることにしました。

自分が「大平原」であるならば、自分の息子はそれを越えていくものであって欲しい、と思うのが親の常です。大平原を越えていくもの……。

自分の頭の中に草原、地平線、そして真っ青な空のイメージが広がりました。やがてそこに、しっかりと大地に根を下ろし、真っすぐに伸びていく大きな樹が見えてきたのです。そこには鳥や小動物が集まる、豊かな生命の姿も重なって見えてきたのです。

ごく自然に自分の頭の中に浮かんできたその樹は、正に自分がイメージしていた我が子の姿、そのものだったのです。大平原である私の上に力強く立ち、どこまでも高く育ち、そして周囲にはやさしい木もれ日を与え、あらゆるいのちと共に生きていく。

このイメージが浮かんだ瞬間から、自分の子供の名前は大樹以外にありえない、と思っていたのです。その樹を私が見たのは実は自分がまだ高校生の時でした。それから10年の月日が流れ、1996年2月29日午前3時45分、私には長男が生まれました。

子供の名前で悩むことは何一つありませんでした。そう、生まれるずっと前から、彼の名前は大樹だったのですから。

妻の体から生まれ出て、はじめて彼を抱いた時、妻は彼に言いました。

「ようこそ大樹君！ 待ってたよ。よく来たね。」(父)



北海道旭川市の大樹さん

特別住民番号1110

平成3年1月21日、我が家に二人目の男の子が生まれました。きたいはずれの男の子で主人は少々がっかりしていたように思います。でも五体満足で産まれてくれて、それだけで充分幸せでした。「大樹」という名は主人が一週間かけて考えてつけてくれました。生まれおちたその瞬間、最初に対面したその顔、長男とはちがうそのふうぼう?!に主人は男らしさを感じたらしく、まさに『だいき』という名まえがうかんだそうです。とても強くて、たくましいイメージのこの名に主人はあれこれ漢字を考え、大きな樹木の



ごとく育つようにと「大樹」と名づけました。名は体を表すとはよく言ったもので、大樹は本当に元気な子でよく泣き、よく動いて母親の私を手こずらしたつわものでした。これは名まえが悪いのでは？と本気で考えたものです。あまりにも元気がよくて、のびのびした子で、目をはなすとあつというまにいなくなる、いつもスーパーやデパートの中をさがしまわるといふそんな子だったので幼稚園に入るまでの子育ては大変でした。

その子も今では小学校三年生になり、あんなに手がかかったのがウソのようになってもいい子に成長してくれました。ちよっぴり泣き虫で、まだまだ甘えっ子ですが、「大樹町」の名のとおり、大きな、たくましい大人に成長していつてほしいなど、父・母ともに願っています。(父母)

神奈川県相模原市の大樹さん

特別住民番号1114

初めての子供の誕生を心待ちにしていた私達が、いくつか考えていた名前の中に、『大きい樹木のようなたくましい子になるように』と願って考えた『大樹』の名前がありました。



そして出産当日、陣痛の痛みもさることながらいざ出産という時に、なかなか出て来てくれません。というのも、最初から赤ちゃんがちょっと大きめかもしれないので、いざとなったら帝王切開になるかも知れません、とおどかされていたのです。何もそんなにお腹の中で育てくれなくてもと、つい泣き言を言いながら、最後の力を振りしぼってやっとの事で産まれたのが、体重3590グラムの大きな男の子でした。

この世に飛び出して来た瞬間から、とても元気な大声で泣く我が子を見て、半ば放心状態になりながらも、横に付き添ってくれていた旦那さんに

「こんなに大きくて苦労したんだから、名前には絶対に『大』の字を付けてね！」

と頼んでいました。という訳で、最初に考えていた格好いい名前の由来は一体どこへ行ったのか、我が家の『大きな』大樹くん(現在1歳10ヶ月)が誕生したのです。

その名の通り、あまり病気もしない健康体で、すくすく大きく成長してくれて、毎日元気に遊んでいます。

いつか、大樹と一緒に大樹町にも遊びに行きたいと思っています。(父母)

岩手県二戸市の大樹さん

特別住民番号1115

平成元年7月21日金曜日 菅原大樹 すがわらだいき 父・正美 母・美奈子
長男として生まれる。

命名・大樹は、7月の暑い日、午前8時5分に2870gで生まれた。

昼頃には、通り雨が降りどしゃ降りとなり、数分後にはスッキリと太陽が顔をだして、蒸し暑い一日でした。



草・木は、水を受けると大きく成長していくので、初めての子供なので心も体も大きな人、大きな樹みたいに育ててもらいたいので、大樹と命名した。今では、小学四年生となり、次男・慎二小学三年生、三男・拓人小学一年生、長女・咲李奈1歳5ヶ月のお兄ちゃんとして、毎日元気に学校に行っています。

社会の授業で自分の名前が北海道にあると知った時は、喜んでいました。下の子がもう少し大きくなったら、家族で北海道の大樹町に行ってみようかと話しています。

平成11年9月7日(母)

千葉県千葉市の大樹さん

特別住民番号1120

生まれは、札幌市です。

転勤で釧路に住んでいたこともあり、名前に因んで大樹町へ遊びに行



きました(3才の時)。歴舟川(ってありましたよね)で遊んで、お弁当食べました。むろん役場の前で記念写真も撮りました。

この企画は、実家から教えてもらいました。

名付けた時は(昭和61年)、大樹なんて名前は殆どなく珍しいし、字の感じもいいと思いつけたのに、今じゃ赤ちゃんの名前のベスト10に入る位の人気がある名前になっちゃったので、親としては、ウレシイような、残念なような複雑な気持ちです。

でも、未だに親も子もとても気に入っている名前です。(母)

北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号1121

大樹という名前の由来についてと聞かれ、家族一同「うーん」とか「どうだったっけ?」とか、「困ったねえ」が最初の言葉でした。我が家の大樹君は、三人兄弟の次男です。長男の時はそれはもう家族全員であれがいいとか、これがいいとか考えたものですが……。2年後の同じ誕生日(長男 昭和62年4月15日、大樹 平成元年4月15日)に生まれた大樹については、男の子とわかっていませいもあり、テレビを見ていたたま可愛らしい男の子が大樹と言う名前だったので「大樹にしようか?」「うーん、そうしよう」というようなノリでついてしまったのですが、やはり意味合いは北海道に生まれた男の子らしく、広い大地に大きく広く伸びる樹木のように大きな心と広い心と素直にまっすぐに育って欲しいと言う気持ちが込められています。そして長男が雄太、そして大樹と上の二文字をとると、北海道と言う地にピッタリの『雄大』になります。そして、なんとこの『雄大』で終わるつもりが6年後、なんとまた男の子が誕生し、さて『雄大』に何をくっつけようか?という事になり、三男は翔平と命名され、三人で『雄大に翔く』となりました。長男が12歳、大樹が10歳、三男が4歳と、毎日戦争のような日々を送っています。大樹は今、少年野球と「南の沢だべサ」というヨサコイソーランチームで元気に頑張っ毎日を送っています。



最後になりますが、このような企画に参加させて頂く事ができた事は、大樹にとって生涯思い出に残るものとなると思います。

大樹町役場の皆様、大樹町長の伏見悦夫様に心より感謝致します。

是非一度、家族でゆっくり温泉にでもつかり、大樹町観光に出掛けたいと思っております。(母)

山口県周東町の大樹さん

特別住民番号1128

平成4年5月1日誕生。命名「大樹」。

太い幹に、大きく広げた枝、青々と繁る葉。そんな樹をイメージして、心の広い、何にも負けない強さ、みんなを包み込む優しさ、そんな大きな人になって欲しい。そう思っつけたのが、この名前です。ただ主人にはもう一つの思いがあった様です。縁あって、私の姓を名乗ることになった主人の旧姓は「廣森」。広い森の中にある、ひときわ目立つ大きな樹。いいつながりだと思いませんか。ちなみに、次男の名前は「直樹」です。こちらは、まっすぐに伸びた樹。どちらも字画を見て付けた訳ではないので、そういう見方からすれば、ベストという訳にはいきません。でも、親の思い、そちらから見れば、これでよし!! と、自己満足しています。



「大樹」という名を付けた事で、思いがけずこの様な機会にめぐりあえた事、本当に良かったと思っています。自分の名前に関係する本を手にする事が出来るなんて、そうそうある事ではないですよ。本当に、ありがとうございます。

余談ではありますが、我が家で勝手に決めたテーマソングがあります。それは某電機メーカーのCMソングです。「この木なんの木……」っていうあれです。私のケータイの着信音もそうなんですヨ。(母)

この瞬間から、君はひとりの人間。この瞬間から、君は自分の人生を歩まねばならぬ。

父は、君が自分の人生をたくましく創造していくことを、誰よりも近くで、誰よりも願い信じながらみつめていたい。人生どんな苦境の運命の中でも、前、そして明日をみつめて、いつでも小さな感動を大切にしていきたい。

父は君に目に見えるものは何も残してやれぬ。父が父の人生を父なりに精一杯生きている姿を残せてやれるよう父もともに歩みたい。そしていつの日か君にのりこえられる日を楽しみにしながら。(出生の日に寄せて、父の自覚とともに 大樹成長日誌より)



出生3日目 いっそう顔だちがはっきりしてくる。目が澄み美しい。命名 大樹 とする。産院にて母と話す。

天にむかってまっすぐに、幹を大きく大地に根をはり、たくましく人生を歩んでほしい。そしてこの大樹にこめられた思いをいつの日か話す日が来るであろう。この平成3年、世の中は豊かさの中にも大切なものを決して見失うことのないよう必死で人間らしさを求めている。この地球にも人類に課せられた課題も多い。

大樹が社会を知り、より多くの出会いを求める頃はすでに世紀は21。より柔軟でより人間的な豊かな大樹であってほしい。(大樹成長日誌8月18日分)(父)

私は、平成7年5月2日に、帝王切開で大樹を出産しました。大樹という名前の由来は、ひらめきでした。広い大地に一本すーっと伸びた大きな樹が立っている風景が、思い浮かびました。その時、名前にあやかりたい大きく育てほしい、ただそればかりを願ってこの名前を付けました。

私は、4月に長男の幼稚園の入園式のあと、定期検診で、切迫早産のため入院を勧められました。長男を普通に産んでおり、私に限って問題がおこるわけがないと思っていました。それに長男が幼稚園に通い始めたばかりで不安な気持ちでいっぱいの際に、母親の私が入院するわけにはいかず自宅療養ということになりました。しかし、一週間後の検診でも状態は好転しておらず、とうとう入院することになりました。なんとといっても私の心配は、長男の事にありました。しかし、逆子で足が下にある状態だったお腹の子をなんとか正常の状態に戻すことは、切迫早産という状態ではとてもむずかしい事でした。

そして、5月2日、無事出産しました。その後、順調に発育していました。名前もなかなか決まらず高橋君と呼ばれていました。あと2日で家に帰れると思っていた矢先、小児科の先生からお話があると呼ばれました。あの時の何が起こったのか不安な気持ちで歩いた廊下の遠い事、今でも忘れることはできません。そして先生から高橋君は昨夜、重体になりましたので産婦人科から小児科へ転床しますと言われました。個室に入り保育器の中で点滴をされ、ぐったり寝ている我子を見るのは、とてもつらいことでした。病室の名札には、高橋ベビーとかかれており、早く名前を決めて看護婦さんから名前でもらいたいと思いました。生まれた時の体重が2660gだったのが、どんどん減っていき小児科に移ってから検査のためミルクを飲んでおらず、点滴だけでこの状態が続けば大きくなれないと、単純にそればかり考えていました。そんな時に名前にあやかってこの名前を付けました。その後入退院を繰り返しましたが、今は元気に育っています。(母)

